

会議録

会 議 の 名 称	令和7年度あま市自殺対策ネットワーク会議
開 催 日 時	令和7年8月5日(火)午後2時00分～午後2時40分
開 催 場 所	あま市役所 2階 E会議室
議 題	(1) あま市自殺対策事業の推進について (2) 意見交換 (3) その他
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ あま市自殺対策ネットワーク会議 委員名簿 ・ あま市自殺対策ネットワーク会議 配席図 ・ あま市自殺対策事業の推進について ・ 【資料1】 あま市の自殺に関する統計 ・ 【資料2】 あま市自殺対策関連事業重点施策 ・ あま市自殺対策ネットワーク会議 要綱
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	0人
出 席 委 員	横井寿委員、宇佐美敏委員、恒川和宏事務局長（服部章平委員代理）、近藤純子委員、加藤優子委員、川口聡美委員、林寛良委員、村岡好久委員、柳澤康行委員
欠 席 委 員	覺前淳委員、井村なを子委員、木村考志委員、武藤二三夫委員、鈴木礼子委員、上之典子委員
事 務 局	吉川子ども健康部長、林健康推進課長、山田主幹、加藤主幹、濱嶋主幹、角田課長補佐、植田課長補佐

会議録(要旨)

議事進行：会長

1 あいさつ

会長

2 委員の紹介

委員名簿のとおり

3 議題

(1) あま市自殺対策事業の推進について

下記の会議資料について事務局より説明

- ・「あま市自殺対策事業の推進について」
- ・「【資料 1】 あま市の自殺に関する統計」
- ・「【資料 2】 あま市自殺対策関連事業重点施策」

(2) 意見交換

川口聡美委員

最近の取扱い事案全般に共通して言えるのは、様々な問題を抱え精神的に不安があったり心の悩みを持っている方が非常に多く、孤立・孤独状態の方が多くいると感じる。相談相手が無く家族間でも交流がない孤立状態、引きこもりを多く感じる。その中で最近多いのは、オーバードーズの対応です。以前は 10 代の子が多かったが、年齢が上がり、幅が広がっていると感じている。警察においても販売店に対しての対策強化の必要性を感じている。自殺未遂を図られた方に色々なフォローをしているが、警察にできることに限りがあり、こういった方の問題はある程度の長い期間で見えていかないと解決できないということで、今後も参加されている皆様方と情報共有をして連携していくことが必要と感じている。

林寛良委員

自損行為としての救急搬送数は、令和 5 年は 43 件、令和 6 年は 45 件と 2 件の増加。令和 7 年は 7 月 20 日現在で 24 件の救急出動。年齢層では 20 代から 50 代の働き世代や高齢者の自損行為が増加傾向。オーバードーズも 19 件と多い。既往歴等を確認すると心の病を持っている方が多い。やはり公的機関だけでなく各会社・事業所等々を含め相談しやすい環境づくりの促進が大事となる。リーフレット（困ったときの相談窓口）が必要な方に届くこと、ゲートキーパーの存在役割が大切。今後も情報共有しながら継続して皆様方と協力していきたい。

村岡好久委員

高齢者の男性の場合、なかなか外に出ないんです。

個人的に家に居場所みたいなものを作ったが、来られるのは女性で男性はなかなか来ない。どうしたら外に出てもらえるか。

事務局

やはり男性の引きこもりや閉じこもりがずっと課題にあがっております。趣味とか囲碁等やものづくりといったところを活かして、活躍できる場所を増やしたり、話し合いの場の中ではそういう提案もされているので今後も関係部局でも話し合い、通いの場というところを活かせるようにしていきたい。

恒川和宏事務局長

社会福祉協議会では各種ボランティア活動をやっています。男性の方でも移動援助サービスやボランティア活動がたくさんありますので来ていただければご紹介します。また、シルバー人材センターもありますので、お話し合いではなくても体力を使ったり社会参加できる場所も紹介させていただきますので、よろしくお願いします。

加藤優子委員

事務局から説明がありました、スクールソーシャルワーカーの方が、今、各学校で貴重な役割を果たし、ありがたく助けていただいている。子どもの自殺も心配だが、保護者が精神的に追い詰められているケースもよく耳にする。玄関先まで行ってもその先に踏み込めなかったところを、スクールソーシャルワーカーと担任で訪問し父母との繋がりを持っていたき、関係機関へ繋いでもらい大変助かっている。自殺の一步手前で防いでいくことに凄く効果があり、ありがたい存在ですので、そういった方々の働きを皆さんに知っていただきたくて発言しました。

4 その他 特に無し